

ワークショップ手法を用いた市民参加型まちづくりの現状分析 ーインターネットデータの分析と参加体験からー

足利工業大学都市環境工学科 ○学生員 深澤浩志
足利工業大学都市環境工学科 正会員 為国孝敏

1. はじめに

近年、市民参加型まちづくりを進めるためにワークショップ（以下WS）手法が各地で行われている。一方で、まちづくり目標の十分な検討が成されないままに、安易にWS手法が用いられていることも指摘できる。

そこで本研究は、インターネットデータから事例を収集してWS手法の現状を分析するとともに、実際に参加体験したWSとの比較分析を行い、WS手法の有効性を検討することを目的とする。

2. 仮説設定

本研究では、WSの成功例を以下の成果・効果が得られたものと設定し、研究を行っていく。

成果：WSでの意見が何らかの形として残る。

効果：WSを行ったことでWS本来の目的以外の付加価値が生まれる。

3. インターネットデータから事例の収集・整理

まず、インターネットから事例の収集を行った。今回は、検索サイト（Yahoo、Lycos）から「まちづくり」と「ワークショップ」をキーワードに検索した。検索結果から有効な情報が得られたもの（Yahoo842件中169件、Lycos428件中95件）の中から現状把握を行った。

4. インターネットデータから有効条件の抽出

次に、収集したインターネットデータから成果・効果の高い物を分析し、有効な条件を抽出した。有効な条件を図-1に示す。抽出理由を以下に記す。

- 1) 目的が明確であることにより、出てくる意見もより具体的で現実性のある結果を残すことができる。
- 2) 住民にとって、身近な関わりあるものをテーマにWSを行うことにより、工事後の変化などが目に見えてわかり、自分達の意見を基に創られたという達成感や大切にしようという愛着心が生まれる。
- 3) 幅広い年齢層で意見を出すことにより、さまざまな意見を収集することができる。
- 4) 住民の参加に比べオブザーバーの参加が多いと住民が実験的に行われているのではないかと捉えてしまう可能性が高くなる。また、多くの住民が参加することで多くの意見が抽出でき、WSを通して人と人との繋がりなども生まれる。
- 5) WS手法を用いてまちづくりを進めるにあたり、まちについての一番の理解者は、住民だと考えられる。また、まちに住んでいるのも住民である。まちの理解者であり、また利用者でもある住民の意見は重要である。
- 6) 住民だけの参加で意見を出されても、ただ夢を言って終わってしまうケースがある。行政が参加し、具体的な内容で住民の意見を聞いていった方が高い成果が得られると考えられる。しかし、行政がWSを行ったことに

1. ワークショップの目的が明確であること
2. 対象が住民（市民）に深く関わりのあるもの
3. 年齢層が幅広い
4. 住民の参加が多いこと
5. 主体が住民である
6. 行政が参加しており市民と行政の間で情報の共有が成されている

図-1 有効な条件

キーワード：ワークショップ、市民参加、まちづくり、インターネットデータ

連絡先：〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1（足利工業大学都市環境工学科） TEL 0284-62-0605 内線 385

より、市民の意見を取り入れた、というように市民を利用されないためにも、市民と行政の間で情報の共有がしっかりとなされなければならないと考えられる。

5. 参加体験

今回、参加体験した WS は、桐生市で行われた「買場通り改修ワークショップ」(図一2)と、足利市で行われ「北仲通り改修ワークショップ」(図一3)である。内容は、どちらとも通りの改修工事にもなう住民意見を抽出することが目的で行われている。買場通りでは、予算内で住民の意見を取り入れた工事が行われた。一方、北仲通りでは、住民の提案に近い工事が行われたほか、完成後は、WS 参加者が親睦団体を創り、通りを利用したイベントの開催などを行っている。参加体験した 2 つの事例は、成果と効果が得られているので成功例であると分析できる。

6. 比較分析

インターネットデータから抽出した各々の有効な条件と 2 つの参加体験した事例を比較分析する(図一4、図一5)。比較分析結果を以下に記す。

- 1) 参加事例では、両方とも目的が明確であった。
- 2) 対象が「通り」と両方とも住民に深く関わりがあった。
- 3) 年齢層が幅広い。
- 4) 片方は、住民の参加が多かった。
- 5) 両方とも住民である。
- 6) 買場通りでは、行政が参加していたが情報の共有がなされていなかった。北仲通りでは、行政が参加していなかった。

7. まとめ

今回有効な条件を分析した結果、WS の目的が、明確であること、対象が住民(市民)に深く関わりのあるもの、主体が住民である、以上の 3 点は、特に有効な条件と考えられる。しかし他の 3 点は、今回の参加体験した事例だけでは、有効だとは判断できない。今後、インターネット以外からの詳しい情報の中から再度有効な条件について検討する必要がある。

目的：舗装面の材質、道路構造、ストリートファニチュア
 主催：本一・本ニまちづくりの会
 協力：VAN-NOOGA
 一般参加：沿道住民

	日時	参加人数
1回目	平成14年6月23日(日)13:30~15:30	19名(うち住民7名)
2回目	平成14年7月14日(日)13:30~15:30	14名(うち住民5名)
3回目	平成14年8月11日(日)13:30~15:30	17名(うち住民3名)

成果：歩道部は歩行者の安全を考慮するためにカラーアスファルトにし、車道部は石畳とするといった提案書を提出
 効果：整備予算内で住民の意見を取り入れた内容の工事を行った。ワークショップの情報を、まちづくり情報発信基地に展示することで、住民にまちづくりへ興味を持ってもらうことができた。

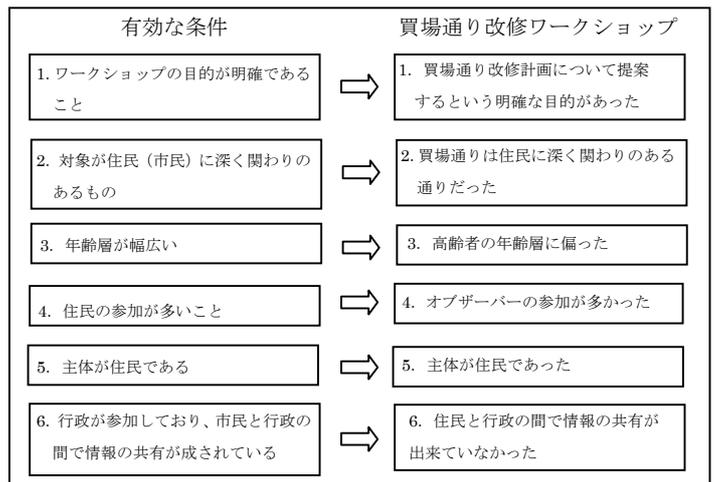
図一2 買場通り改修ワークショップ

目的：歩道部の材質、道路構造、ストリートファニチュアについて提案
 主催：北仲通りの沿道備品を提案する会
 協力：VAN-NOOGA、足利工業大学
 参加者：沿道住民

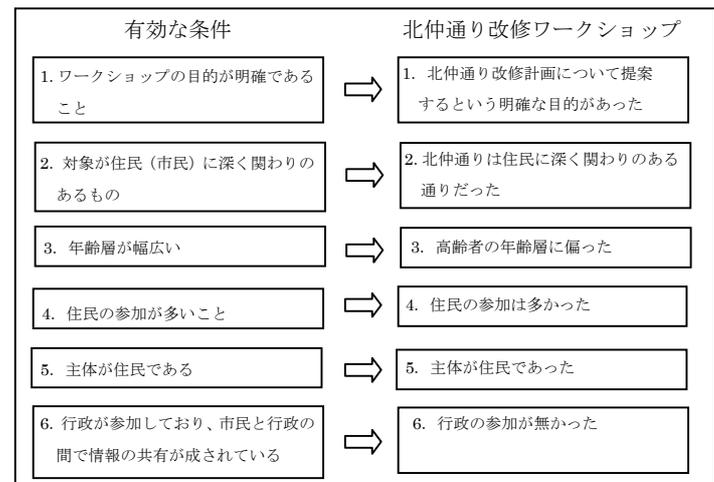
	日時	参加人数
1回目	平成13年5月19日(土)18:00~20:15	19名
2回目	平成13年5月25日(金)18:30~20:10	14名
3回目	平成13年6月8日(金)18:30~20:15	11名

成果：他には無い個性的な街路灯や歩道を煉瓦調とする大正時代を思わせるレトロな提案書を作成
 効果：北仲ペイジメント倶楽部を結成し平成14年5月3日(金)に北仲ペイジメントイベントを開催

図一3 北仲戸通り改修ワークショップ



図一4 有効な条件の比較分析(買場通り)



図一5 有効条件の比較分析(北仲通り)

謝辞：本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた桐生市役所都市計画課、足利まちづくりセンターVAN-NOOGA、桐生市本一・本ニまちづくりの会、北仲ペイジメント倶楽部、さらに足利工業大学交通計画研究室の堀口拓也氏に、心より感謝の意を表します。